

作文の部

※作品内の表現については原文のまま掲載しています。

小学校

最優秀賞

「なかよし学びゅう」

日新小学校 3年生 岩倉 柚実花さん

なかよし学びゅうってなんだろう。あそこのへやで何をしているのだろう。と一年生のときにふしぎに思っていました。かさつて見ると、国語と算数のときだけいなくなることに気づいた。しばらくすると先生がなかよし学びゅうのことをおしえてくれた。みんなとおべん強するのがにがてなこが行くことを知りました。わたしも算数がにがてなのになぜなかよし学びゅうに行けないのか。ふしぎに思ったので、ままに聞いてみました。

にがてなことにはしゅるいがあって、やりとりがにがてな子、しゅう中ができない子、すぐにうごいてしまう子、読み書き計算がにがてな子などがいることをおしえてくれました。わたしは、算数がにが手だけど、教室でじゅぎょうを聞くことができます。だからなかよしに行けないと分かりました。

そしてままは、分かりやすく話してくれました。みんなで山にのぼっていて、てっぺんをめざしている。みんなの目ざしているゴールはいっしょ。お山をかいだんでのぼるのか、ゆっくり坂道をのぼるのか、人それぞれの一人一人のペースがある。ゆっくりだからと言ってからかったり、くらべるようなことではない。なかよし学びゅうでべんきょうをする子どもでも自分のとくいなことはお山をかいだんでもものすごいスピードでのぼることができたりする。ぎゃくにわたしもにがてなことはゆっくり坂道でのぼる。

とくいなことはみんなちがう。にがてなこともみんなちがう。一番たい切なことは、こまっているときは声をかけてあげる。あいてを分かろうとすることが大切だと思いました。

ともだちのとくいなことをたくさん知りたいです。だからわたしは、なかよし学びゅうに行っているか、行っていないかにかんけいなく友だちがこまっているときは声をかけてあげる。友だちがひどいことを言っているときは止めに入る。分からないことがあったらおしえてあげる。友だちみんなを大切にしたいです。

優秀賞

「こころで気づく」

日根野小学校 5年生 大西 奏菜さん

私たちの身の回りには、様々な人がいます。例えば、目に見える違いや目に見えない違いがあります。目に見える違いでも、杖をついている人がいても何をすればいいか分かりません。逆に目に見えない違いでも、ヘルプマークを付けていると何をすればいいか、分かりやすいです。

先日、私がバスに乗るときに前に並んでいたおじいさんが入口の階段を登るのに足が上がりずには立ち止まってしまいま

した。おじいさんが先に行ってください、といったとき、先に行く人がいたそうですが、私の後ろにいた人たちがおじいさんを支えてバスに乗るのを手伝っていました。その時私は、すごいな、何も言わずに初めてあった人と連れいしておじいさんを助けてあげているな、と思うのと同時に、逆におじいさんが杖をついていたから、足が上がりづらいと分かっていたはずなのに、私は動けなかったのが悔しいと思いました。その後、おじいさんがお辞儀をしてバスをおりていきました。

私は、他にも身の回りには、様々な人がいると思った出来事があります。通学するときにひとりの視覚障がい者の人を見かけます。この前、勇気をふり絞って「おはようございます。」とあいさつをしたあと、相手の人もあいさつを返してくれて、嬉しい気持ちになりました。その日から私は毎朝会うたびに、あいさつをするようになりました。それから障がい者を特別な目でみなくなりました。

このように、目に見えてわかっていても、私のように動けない人がいたり、席などをゆずれなかったりします。でもそのときは動けなくてもいいから、どうしよう、と考えることが大切だと思います。また、目に見えなくても LGBTQ の人などは、言われたくない発言をされると不快に感じてしまうのに気づかない人がいます。そのときは、この発言をして、相手は傷つかないのか、一度自分で考えてから発言した方がいいと思います。また、障がいのある人は、少し私たちと違うだけで、それ以外は、何も私達とは変わらないということに気づきました。それに、身の回りには、色んな人がいることをあらためて実感しました。次に、このようなことが起きたら、まずこの人は、どういう人か、何をどう対処したらいいのかに気づいていこうと思います。

優秀賞

「全ての人が平等に生きていくため」

長坂小学校 6年生 吉本 美依奈さん

私は、全ての人が平等に生きていくために作文にしました。

今、私たちが生きる世の中は平等でしょうか。平等といっても、守られているのと守られていないものがあります。その中の男女平等について書きました。

男女平等は、私は守られていないと思います。理由は、私の周りでも「男の子だから」「女の子だから」という声をよく聞きます。その声で、深く心に傷ついてるかもしれません。言っている人は軽い気持ちで言っているかもしれない。だけど言われた人は、一生涯残る傷がついてるかもしれません。あなたが軽い気持ちで放っている言葉。そんな言葉がなくなってほしいです。また、言葉だけではなく、たくさんの人が使う公共の場もみんなにとって平等な場所になってほしいです。最近ではよく多目的トイレ等を見かけます。だんだんとみんなが平等である場所が増えてきています。

世界からみて、日本は男女平等は成り立っているでしょうか。日本は男女平等について評価が低いです。理由を考えてみました。一つめが日本には女性の政治家が少ないことです。二つめは、まだたくさんの人の心に男性は仕事などの考え方が残っているからだと思いました。そんな思い込みがだれかを差別しています。

だれもが平等に生きていくために、男女平等について考えないといけません。

この世の中にはたくさんの考えの人たちがいます。そして全ての人が平等に生きていくためにはおたがいを理解することです。そして、軽い気持ちで放っている言葉がだれかを傷つけていると思い、心から男性、女性という思いを変えることです。これまで生きていた社会、世の中から変わり、これから生きていく社会、世の中で男女平等が成立しているような社会、世の中にしていきたいです。そして、全ての人が男女のことでなやまずに、自分らしく生きていける世界が一日でもはやくきてほしいと私は思いました。

最優秀賞

「みんなが幸せな世の中に」

長南中学校 2年生 中野 永子さん

わたしは、中学1年生の時に初めて部落差別のことを知りました。人権学習の時間に先生が説明してくれて、「そんな差別あるんや」と思いました。その後、校区のある地域の方がお話をしてくれて、その地域が部落差別と関係があることを知りました。その時、その地域に住んでいる学年の仲間が泣き崩れていました。その姿を見て、わたしは悲しくなりました。そして、そんな差別があるのはとてもひどいと思いました。

わたしは、なぜ住んでいる場所だけで、差別をするんだろうと考えてみました。何も悪いことをしていないのに、意味がわからないです。でも、差別をする人の中には、知らず知らずのうちに差別をしてしまっている人もいます。まわりの人からきいたことやネットの情報が正しくないのに、それを信じてしまって、それが偏見や差別につながることもあるからです。なので、もしかしたらわたし自身も知らず知らずのうちに差別してしまうかもしれません。でも、わたしは、差別する人にはなりたくないです。知らず知らずのうちと言っても、だれかを傷つけ、悲しませてしまうからです。そんなことをしてしまうと、絶対に後悔すると思います。

差別があつたら幸せじゃありません。差別される方はもちろん幸せじゃないし、する方も幸せじゃありません。わたしはみんなが幸せな世の中になってほしいと思っています。そのためには、差別の問題を自分のことと思わないといけなと思っています。ひとごとだと思つたら、ちゃんと考えないだろうと思うからです。

わたしは別の地域に住んでいるけれど、部落差別を学習した時に、自分のことだと思って考えました。その地域に住んでいる人が差別の問題を起こしているのではなくて、その地域ではないところに住んでいる人が起こしている問題だからです。だから、周りの人が変わらないと、差別は変わらないと思っています。

わたしは、小学校から人権学習をしてきました。そして、いろんな差別を知りました。人権学習をしていなかったら、自分だけで差別のことや人権のことを考えることはなかったと思います。部落差別のこともそうです。学校で学習していなかったら、知らない問題だったし、知らず知らずのうちにそこに住んでいる人たちや、学年の仲間のことを傷つけていたかもしれないからです。学習して本当に良かったと思います。わたしもそうですが、学年のみんなもそう思っていると思います。

部落問題学習をした時に、ある学年の仲間が「その地域に住んでいるからといってわたしは友だちをやめません」と言いました。わたしたちも同じ気持ちです。その時の学年の雰囲気は本当によくて、この学年で本当に良かったと思いました。この学年の仲間なら、自分のことをなんでも話せると思えました。信頼できる、安心できる仲間です。

今年、人権問題研究部の仲間と一緒に熱中フォーラムに参加しました。そこで、学年のみんなととりくんだ部落問題学習について発表しました。部落差別のことをいろんな人に知ってほしいし、みんなが理解してくれたら、差別がなくなっていくと思ったからです。部落差別のことを知った時に、泣き崩れてしまった友だちも一緒に発表しました。自分の言いにくいことなども発表していてすごいと思いました。その友だちは、「一人だったら発表できなかった。一緒に発表してくれる仲間がいたから自分も話せた。」と言ってくれました。友だちが安心してくれてうれしかったです。そして、わたしたちの発表で、部落差別のことを真剣に考えたいと言ってくれた人がいて、発表して本当によかったと思いました。

わたしは、最近とても悩んでいたことがあって、お母さんや先生や友だちに相談しました。学校に、自分のことを話せる友だちがいるというのは、すごく安心できます。もし相談できる友だちがいなかったら、学校に行けなかったかもしれません。周りに支えてくれる人がいる安心感がわたしにもわかりました。

わたしは、差別をなくすためには、やっぱり人権学習に取り組むことが大切だと思います。人の気持ちを考えられるようになって、助け合え、信じ合え、支え合えるそんな仲間になれると思います。そんな仲間になれば、みんなが安心してきて、幸せに

なれると思います。

わたしたちは、微力だけど無力ではありません。この仲間たちと、いろいろな人権問題について考え、差別をなくしていきたいです。これからも自分にできることを考えて、わたしたちは行動していきます。

優秀賞

「本当に必要な〇〇らしさ」

佐野中学校 3年生 鉄野 悠真さん

〇〇らしさという、みなさんは何を思い浮かべますか。夏らしさ、冬らしさ、自分らしさ、リーダーらしさ……。世の中には〇〇らしさというものが溢れています。そしてこの〇〇らしさのうち、人に関する〇〇らしさ、これは大きく二種類に分けることができると僕は考えています。一つ目は、その人自身に焦点を当てた言い方で、例えば自分らしさのような言い方です。二つ目は、固定概念にとらわれたような言い方で、例えば男の子らしさや、先ほど述べたリーダーらしさなどが挙げられます。この二つに大した差はないように感じますが、僕は、普段何気なく使ったり意識したりしている後者の〇〇らしさについて、知らず知らずのうちにその人を苦しめているのではないかと考えました。

その背景として、ここ一年間キャプテンとして過ごしたバドミントン部での経験が挙げられます。初めての頃僕は、「キャプテンなんだからキャプテンらしくいちばん強くないといけない!」と勝手に思い込んでいました。それがかえって力みに繋がり、試合で思うような結果が残せず、「キャプテンらしくないキャプテンやな」と自信をなくしかけていました。ですがあるとき、一度割り切って「もし負けたとしても、それら全てを含めてキャプテンとしての今の自分。だからそんな自分を認めて自分らしくプレーしよう」と思い、思い切ってプレーしてみました。すると、急に息がしやすくなったというか、試合や大会でもリラックスしてプレーできるようになり、だんだんと結果も残せるようになってきました。

一見人権問題と関係がないように思えるかもしれませんが、ここから僕はあることに気がつきました。それは、人は無意識のうちにキャプテンらしさのような固定概念に締めつけられているということです。出る杭として打たれないために、〇〇らしくあるために、〇〇らしさに縛られているということです。

また、自分というものを表に出せず、苦しんでいる人がいる一方で、逆に自分というものを表に出したために苦しんでいる人もいます。男の子らしくない、女の子らしくない、出来ないやつらしくない……。そういった〇〇らしくないという考え方が、今やいじめや男女差別などのあらゆる人権問題の根底にあると思います。

以上のように、世の中には〇〇らしさにとらわれて息苦しく感じている人がたくさんいます。けれど本当に必要なのは紛れもなく、「自分らしさ」です。自分たち一人一人がかけがえのない唯一の存在であることを忘れてはならないと僕は感じます。自分たち一人一人が長所と短所を合わせもつ自分自身を許し、認め、更にそれらの個性をお互いに尊重しあうことで、誰もが生きやすい世界になるのではないかと思います。「自分らしさ」——、これこそ、僕たちが繋がり合うために、本当に必要な〇〇らしさであると考えます。

優秀賞

「ありのままでいたいから」

長南中学校 2年生 福間 柚さん

(題名とお名前のみ 掲載します)